

農山漁村の活性化に向けた農林水産省の取組について

1. 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略（概要） …… 1
2. 女性の活躍による地域活性化 …… 2
3. 農山漁村発イノベーションの推進による地域活性化 …… 3

令和2年12月16日

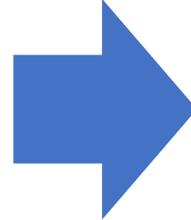
農林水産省

1. 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略（概要）

～マーケットイン輸出への転換のために～

戦略の趣旨

・2025年2兆円・2030年5兆円目標の達成には、海外市場で求められるスペック（量・価格・品質・規格）の産品を専門的・継続的に生産・販売する（＝「マーケットイン」）体制整備が不可欠



マーケットインで輸出に取り組む体制を整備するため、
・速やかに実行するもの
・令和3年夏までに方向を決定し、実行するものを実行戦略として取りまとめ

3つの基本的な考え方と具体的施策

1. 日本の強みを最大限に活かす品目別の具体的目標を設定

① 輸出重点品目(27品目)と輸出目標の設定

② 重点品目に係るターゲット国・地域、輸出目標、手段の明確化

③ 品目団体の組織化と海外における国の支援体制の整備

2. マーケットインの発想で輸出にチャレンジする農林水産事業者を後押し

① リスクを取って輸出に取り組む事業者へのリスクマネーの供給を後押し

② 専門的・継続的に輸出に取り組む「輸出産地」を具体化、輸出産地形成を重点的に支援

③ 大口ロット・高品質・効率的な輸出物流の構築のため、港湾等の利活用、輸出物流拠点の整備 等

3. 省庁の垣根を超え政府一体として輸出の障害を克服

① 輸出本部の下、政府一体となった規制の緩和・撤廃の取組

② 輸出先国の規制やニーズに対応したHACCP施設等の整備目標の設定、目標達成に向けた認定迅速化

③ 日本の強みを守るための知的財産の流出防止対策の強化 等

4. 国の組織体制の強化

農林水産省に「輸出・国際局」（仮称）を設置し、政府全体の司令塔組織である農林水産物・食品輸出本部の運用等を通じて、同局を中心として、輸出関連施策を政府一体となって実施する。

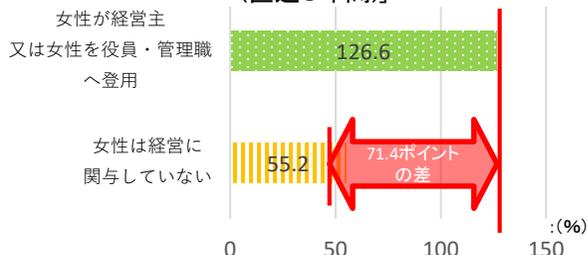
2. 女性の活躍による地域活性化

- 今後の農業の発展のためには、女性が能力を発揮し、地域や経営をリードしていくことが重要。一方で、女性農業者の働く環境や地域農業への参画状況には依然として課題がある。
- このため、関係府省とも連携し、「女性が働きやすく暮らしやすい環境整備」、「女性による事業活動に対する支援」を進め、女性農業者の経営発展と女性の農業就業者の増加、そして地域の活性化を図る。

<女性をめぐる状況>

- 女性が経営主や幹部となっている農業経営体では、利益増加率が高い

[女性の経営への関与別経常利益増加率
(直近3年間)]



資料：株式会社日本政策金融公庫農林水産事業本部「平成28年上半期農業景況調査」(平成28年9月公表)を基に農林水産省作成

- 他方、農業・農村では下記の課題

- ・ 家事や育児に係る女性の負担が大きい
- ・ 仕事と子育ての両立ができる環境が整備されていない
- ・ 女性が十分に活躍できていない

女性の割合：認定農業者4.8%
農業委員12.1%
農協委員8.4%

<関係府省と連携した取組>

- 女性が働きやすく暮らしやすい環境整備

・ 託児と農業を地域で一体的にサポートするネットワークの構築、地域の女性が暮らしやすい仕組み・施設整備、女性の妊娠・出産への配慮(トレ、託児所、子育てサロン^(※)等)

- 女性による事業活動に対する支援

・ 地域の女性グループ活動支援

〔農業経営力向上のための研修
アドバイザー派遣
地域の農業女子プロジェクト活動 等〕

・ 女性の農業体験・研修の受入体制の構築、地域外からの農業体験や就業に係る環境整備

(アドバイザー派遣、宿泊場所の整備、空き家情報等の提供^(※)等)

(※) は関係府省との連携により取り組む

<参考>

地域一体となった農業者の子育て支援

- 町と農協の連携による託児支援(北海道中標津町)

・ 夫婦での酪農新規就農者の増加を受け、計根別(けねべつ)農協と町、北海道が連携し、託児所兼児童館の運営を開始(2019年~)。JAが建物を提供し、町が運営。地域の住民が利用。

- 障がい児等の居場所づくり(石川県金沢市)

・ 地域の女性が、知的障がい児、虐待を受けた児童、ニート等の日常的な居場所として、「日常生活支援サポートハウス」を開設(2008年~)。農作業体験活動などを実施。



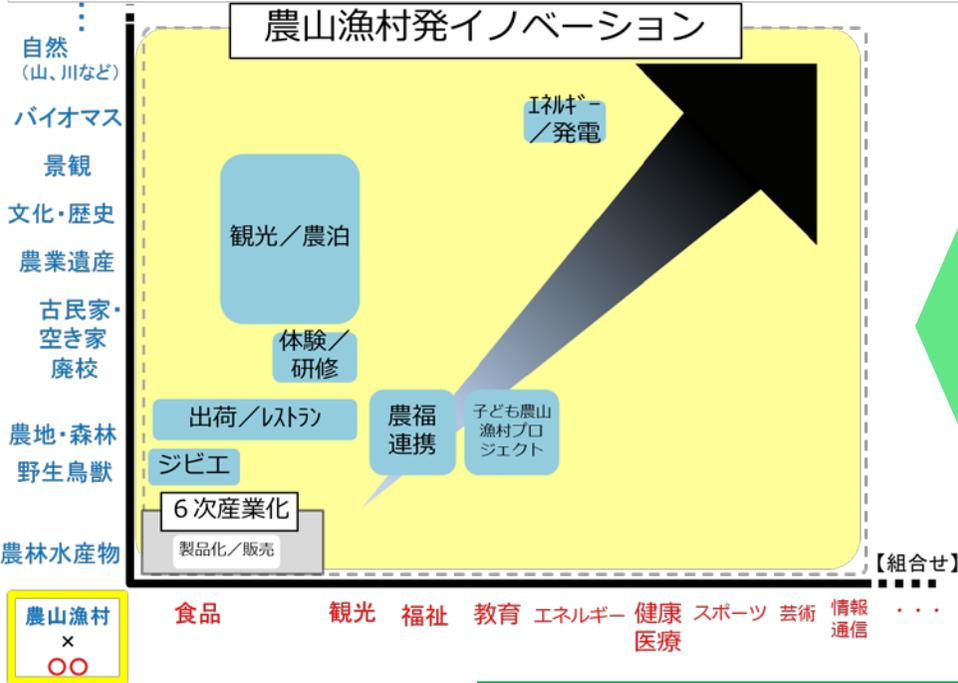
←活動の様子

3. 農山漁村発イノベーションの推進による地域活性化

- 農山漁村に人を呼び込むためには、所得と雇用機会の確保が必要であり、「農山漁村発イノベーション」(※)により新たなビジネス展開を促進。
(※:活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせる取組)
- 農山漁村発イノベーションにより、事業創出に取り組む者を育成するとともに、農山漁村関係人口の創出・拡大を推進。

農山漁村のあらゆる地域資源をフル活用し、他産業起点の取組など他分野との連携を促進

【農山漁村の地域資源】



<支援の方向性>

【事業創出に取り組む者を育成】

資金: 資金融通の円滑化

- 農山漁村発イノベーションに取り組む事業体に対する資金融通の円滑化のための支援措置を検討

情報: 農山漁村発イノベーションプラットフォーム

- ディスカバー農山漁村(むら)の宝選定地区のビジネスや地域づくりの知恵の共有
- 起業家間の情報交換によるビジネスプランの磨き上げ

環境: 情報通信環境の整備

- 農山漁村発イノベーションによるビジネス展開等に不可欠な、デジタル環境を整備

【農山漁村関係人口の創出・拡大】

- 特定地域づくり事業協同組合等も活用し、都会の若者等を呼び込み

農山漁村発イノベーションの事例

遊休施設の利用拡大による地域活性化(宮城県蔵王町)【農山漁村 × 観光】

- 【取組】
- 地域内の空き別荘15棟を民泊等に利活用。
 - ワークेशनが可能な施設を整備。

- 【実績】
- H29から民泊等を15棟で開始。年間利用者数8,500人泊(R元年度)を達成。
 - コロナ禍でもワークेशनとして、今年4~8月に6組340人泊を受入れ。



伝統的な農作物を障害者の手で生産(京都府京田辺市)【農山漁村 × 福祉】

- 【取組】
- 農産物を加工し、濃茶大福等の加工品を製造。
 - コミュニティカフェを併設し、自社で生産した農産物を材料としたランチを提供。

- 【実績】
- 京都府により農福連携の推進拠点として指定。
 - ノウフクJASの第1号認証を取得。
 - コミュニティカフェは、最大80人/日を超える来客となり、地域の交流の場に。

